

宮崎国際大学



教育学部ニュースレター

2年間を総括して

教育学部長 福田亘博



皆様方にはますますご健勝のこととお喜び申し上げます。

平成26年4月に教育学部がスタートして2年目が終わろうとしています。本学部では、1年目には、教養・教科のカリキュラムをスタートさせ、2年目にはさらに教職科目が加わりましたが、スムーズに立ち上げることができたと考えています。学部の特色であるキャリア教育として設置した忍ヶ丘教養科目（I～IV）についても開講しました。また、教員採用試験合格を目指したオプションプログラム（対策講座や英語力・音楽力向上プログラム）も順次立ち上げました。カリキュラム以外には、2年目に入り、保育教諭ゼミを新たに立上げ、さらには、基礎学力向上を目指して補習授業も開始しました。その他、1年生、2年生の学修指導は、学生が自分で考えた達成目標を学修ポートフォリオで確認しながら行いました。このような学部の取組や学生諸君の頑張りもあり、1、2年生の学業成績は評定平均値（GPA）で見ると、大いにアップしていました。学生諸君には自信がついたことでしょう。

本学部では、教育カリキュラムや各種教育プログラムについて、教育効果を検証・評価しています。その結果、英語力向上プログラムの一部について、平成28年度から改善・強化します。また、同時に総合英語学習のための「e-learningシステム」を導入し、学生には「聞く・話す・読む・書く・語彙・文法」の6技能について、学内無線LANによりスマホ・タブレット・パソコンを活用し、いつでも学習できるように整備しました。小学校において英語の教科化が決定された今、教員採用試験においても当然のことながら英語が試験科目として追加されるでしょう。学生諸君は、これらを大いに活用し、教員採用試験合格や保育教諭などの就職に向けてさらに研鑽を積み、「自分の夢」を勝ち取ってくれるものと期待しています。

教育学部 幼保コースの学生が、初めての実習(保育実習 I a)に臨みます

保育実習 I aに向けて

教育学部 2年 椎原さくら(宮崎県立宮崎西高等学校出身)



2年生の幼保コースの4名は、2月後半に10日間の保育実習に取り組みます。

先日、保育実習の事前学習として3日間、各自の実習先を訪問しました。私たちが自主的に行ったものですが、子どもたちと遊んだり、食事の準備をしたりなど、子どもと関わる機会が多くありました。保育実習前に実習先の雰囲気、子どもの様子や保育者の仕事を観察することができました。保育実習に向けて、さらに意欲が高まるとともに気持ち引き締まりました。

実習の本番では、この自主実習での体験を含め、これまで大学で学んだことを生かし、充実した保育実習にしたいです。

模擬授業教室に学生作品を掲示しました。保育内容環境に関わる動植物マップ、図画工作の構成と配色に関わる作品です。



目次

2年間を総括して.....	1
保育実習 I aに向けて.....	1
忍ヶ丘教養Ⅳ 研究発表会	
忍ヶ丘教養の総括.....	2
忍ヶ丘教養Ⅳを終えて...	2
教育学部教員から.....	2
1年間を振り返って	
1年生	3
2年生	3
ビブリオバトル全国大会...	3
クラブ紹介	3
ジョイントコンサート.....	4
青島リトリート	4
入試広報部より	4

ハイライト

教育学部は2年目を終えようとし、2年生は「忍ヶ丘教養Ⅳ研究発表会」などを経験しながら、大きく成長しています。幼保コースは初めての实習に臨みます。

教育学部2年生が忍ヶ丘教養Ⅳ 研究発表会を行いました

忍ヶ丘教養の総括

教育学部長 福田亘博

本学は宮崎市清武町の「忍ヶ丘」と呼ばれる丘陵地にあります。忍ヶ丘の名称は幕末の高名な儒学者安井息軒先生が詠んだ「今は音を忍ヶ丘の時鳥、いつか雲井のよそに名乗らむ」に因んでいます。すなわち、この忍ヶ丘にある本学で学んで、この地から羽ばたき、ひとかどの人間になって欲しいと考え、教養教育の特色として名付けました。

忍ヶ丘教養は、忍ヶ丘教養Ⅰ（1年前期）～忍ヶ丘教養Ⅳ（2年後期）から構成されています。忍ヶ丘教養Ⅰ～Ⅲでは、本学の建学の精神「礼節・勤労」の理解をはじめ、「大学での自主的・継続的な学習能力の修得」、「コミュニケーション能力の修得」、「地域・国際社会における教育の理解と教育者としてのキャリア形成」に資する授業内容を学びます。忍ヶ丘教養Ⅳでは、学生がⅠ～Ⅲで学んだ内容について、自分で興味ある課題を考え、決定し、必要な資料・情報を収集・整理・解析し、さらに他者に理解できるように発表する技術を修得することを目指します。課題解決型学習（Problem-based learning：PBL）です。指導教員1人に数人の学生を配属しますが、教員はあくまでも助言するだけに留めています。

忍ヶ丘教養Ⅳの発表会が平成28年1月28日と2月4日2回にわけてに開催されました。発表された課題は多岐にわたり、我々にとっても初めて聞く内容もありました。学生は自分で設定した課題を発表するために、シナリオを考え、インターネットや図書館等での収集はいうに及ばず、宮崎県教育委員会、市内の公立小学校や保育所などにも出かけ情報収集や聞き取り調査を行い、発表に臨んでいました。学生にとって今回の発表会は良い経験になったと思います。また、忍ヶ丘教養Ⅰ～Ⅳの教育目標として掲げている能力についてしっかりと感じて身に付けてくれたものと考えています。



忍ヶ丘教養Ⅳ発表会の様子

忍ヶ丘教養Ⅳを終えて

教育学部2年 菊池 葵

（宮崎県立宮崎北高等学校出身）



1月28日と2月4日に忍ヶ丘教養Ⅳで取り組んだ研究成果の発表会が開かれました。研究課題を自分で設定し、必要なデータを収集し、論文

としてまとめ、その成果を発表する。このような研究活動を初めて経験しました。最も苦労した点は理論的に論じることです。高校までの調べ学習とは異なり、必要なデータの収集および分析、そして説得力ある文章を書くことの難しさを学びました。先生のご指導を受けながら、論文としてまとめることができました。4年次の卒業論文では、今回身につけたことが必ず生きて感じています。今後は知識を得るだけではなく、文章を書く力とプレゼンテーション能力を高められるように勉強していきたいです。



菊池さんが研究発表で使用したスライドの1枚目

新企画

教育学部教員から

図書館長の、ちょっとした自己紹介



教育学部教授 菅 邦男



専門は国語教育・近代文学です。子どもの頃からの本好きで、文学や歴史に関するものを今でもほぼ毎日読んでいます。音楽も好きで、ケーナを吹いています。スポーツでは高校時代が柔道部（意外だと言われるのですが、初段です）、今は弓道をやっています（錬士六段）。合間にあちこちを旅しています。と言うと遊んでばかりいるようですが、本も書いています。単著に『赤い鳥と生活綴方教育』（風間書房）など4冊、共著に『現代詩大事典』（三省堂）他、最近では随筆集『ふしぎなことも』（鉦脈社）等があります。

図書館長をしています。今年8月には私立大学図書館協会全国大会（於上智大学）で研究発表をします。また2月から宮崎県読書活動推進委員会の委員長を務めます。大学内だけでなく、県と連携して宮崎学園図書館の活動を広げていきたいと思っています。

皆さんもビブリオバトルや多読賞に挑戦し、大いに図書館を活用して下さい。

（担当科目：国語・文学・国語科教育法Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ）

1年間を振り返って

私の1年間

教育学部1年 生見大樹
(鹿児島県立錦江湾高等学校出身)



宮崎国際大学に入学して、もう1年が経とうとしています。初めての一人暮らし、初めての大学生活、その他にも「初めて」を多く体験する1年でした。

印象に残っていることが二つあります。一つは、青島リトリート(宿泊研修)です。このイベントは入学時の緊張感を和らげてくれました。また、スムーズに大学生活をスタートできるようにサポートしていただき、とても素晴らしいものでした。この1年間を大きな問題もなく過ごすことができたのは、このイベントのおかげだと思います。

もう一つは、スクールトライアルです。スクールトライアルとは指定された学校に三日間訪問し、教員の仕事を現場で観察するという宮崎県教育委員会が行う取組です。スクールトライアルを通じて多くのことを勉強しました。さらに、自分を磨くために、新たな目標を立て、「教職につきたい」想いを再確認できました。この1年間で学んだことを生かし、来年度は一回りも二回りも成長できるように努力したいと思います。

2年次を終えて

教育学部2年 太田原真琴
(宮崎県立宮崎南高等学校出身)



2年次では、単位を取得すべき授業科目数が多くなります。また、2年次後期の忍ヶ丘教養Ⅳではミニ卒業論文というべき論文の作成および成果の発表に取り組むため、1年次よりもとても慌しくなります。しかし、充実した一日一日を過ごすことができ、「時間の使い方」がとても大切なことを実感しました。例えば、1年次には授業のない時間帯に携帯電話を触ったり、友達と何となく過ごすことがありました。しかし、2年次では課題も多く、上手に取り組みなければなりません。この1年間で1年次のときよりも「時間」を意識し過ごすことができました。来年度は授業の課題だけでなく、教員採用試験合格に向けて時間を上手に使い、充実した日々を積み重ねたいと思います。

全国大学ビブリオバトル2015に出場しました

緊張に勝つ力

教育学部1年 岩崎智也(宮崎県立都城西高等学校出身)



私は、昨年12月23日に開催された「全国大学ビブリオバトル2015～首都決戦～」に出場しました。ビブリオバトルを簡単に説明すると、自分がお勧めする本を紹介し、その本を読んでみたくなるかを競うゲームです。今回全国大会に参加しましたが、実はビブリオバトルについて全く知りませんでした。しかし、授業の一環で宮崎国際大学・宮崎学園短期大学の予選に参加したところ、大学代表に選ばれ、何と南九州予選も突破しました。個人的には、自分の気持ちが追い付かないまま全国大会出場になってしまいました。私は人前に立つことが苦手なので、全国大会では終始緊張しました。結果は思わしくなく、落ち込みました。しかし、他の出場者を見ると堂々としており、決勝に進んだ人は緊張を物ともしていませんでした。大舞台上に強い人を目のあたりにできたことでも勉強になりました。この貴重な経験を生かし、今後の勉学に励みたいと思います。



岩崎さんが紹介した本

クラブ紹介

宮崎国際大学野球部

教育学部2年 古谷一馬

(ルーテル学院高等学校出身)

野球部は昨年度から本格的に活動を開始しています。これまで、野球部は存在していたものの、練習量は多くなく、部として機能していませんでした。私は、何とか野球部を変えたと思い、活動を続けてきました。しかし、その過程は簡単ではなく、何度もくじけそうになりました。そんな中、大学からのサポートや仲間の励ましもあり、練習を重ね、練習試合を組み、そして大会に出場するまでに至りました。私は、ここまで野球部が発展したことを夢のように感じています。これまで諦めずに努力を重ねてきて本当に充実感に満ちています。



昨年野球部は2回の大会に出場しました。上位進出とよい成果をあげています。野球部部員の野球に対する想いは強く、練習の集中力は素晴らしいものがあります。その成果はきちんと結果にもあらわれています。この頑張りがさらに野球部の発展に繋がるように、平成28年度は部長としてリーダーシップを取り、野球大会での優勝を目指して邁進します！

宮崎国際大学ジョイントコンサート

宮崎国際大学のピアノの会、教育学部2年生、吹奏楽部がジョイントしてコンサートを開催します。入場無料で、どなたでもご来場いただけます。

教育学部2年生は、合唱の演奏を行います。2年生が履修する科目「子どもの音楽活動」では、学芸的行事(音楽集会、今日の歌など)及び儀式的行事(入学式、卒業式など)を指導するために、合唱を軸として理論的・実践的な学修に取り組んでいます。今回の演奏で会場の皆さんにハーモニーの美しさが伝わるよう願っています。

日時：平成28年3月6日(日)開場13:30

開演14:00

場所：宮崎学園高等学校・大坪記念ホール

(宮崎市昭和町3番地)

主催：宮崎国際大学クラブ「ピアノの会」

合唱
COSMOS
この星に生まれて
Smile Again
旅立ちの日に
ピアノ
天国と地獄
スケルツォNo.3
(ショパン作曲)
プレリュードop32-12
(ラフマニノフ作曲)他
吹奏楽
エンターティナー
アルセナール
千と千尋メドレー他



新入生歓迎 青島リトリート 2016



平成28年4月15日(金)から1泊2日で宮崎県青島青少年自然の家において、新入生全員が参加する青島リトリートを予定しています。青島リトリートは、新入生同士あるいは先輩や教職員との人間関係を構築するとともに、本学における授業等を理解するため、種々のアクティビティーやグループでの討議、学生生活に関わる講話等を聞く内容となっています。新入生には大学における学生生活の理解や、親睦を深めるよい機会となっています。

平成28年度 宮崎国際大学の主なイベント

高校生や保護者の方はもちろん、本学に興味のある方はどなたでもご参加いただけます。

■オープンキャンパス

- ・開催月：平成28年7月、8月、平成29年3月
- ・内容：学部説明、体験授業、卒業生・在学生の体験発表
学食体験、個別相談会、AO入試説明会 等

※オープンキャンパスの実施日は、決定次第、ホームページ等でご案内いたします。



昨年夏のオープンキャンパス
教育学部学生企画わくわく教育の森の様子

■ウィークエンド・キャンパス・ビジット

個別相談会を、年間7回開催いたします。

- ・開催日：平成28年5月14日(土)、6月25日(土)、9月17日(土)、10月29日(土)
12月23日(祝)、平成29年1月28日(土)、2月26日(日)



ウィークエンド・キャンパス・ビジットの様子

■ウィークデイ・キャンパス・ビジット

上記に参加できない方は、平日でも対応いたします。



宮崎国際大学

国際教養学部 比較文化学科

教育学部 児童教育学科

〒889-1605 宮崎県宮崎市清武町加納丙1405番地

電話：0985-85-5931 FAX：0985-84-3396

ホームページ：<http://www.mic.ac.jp>



大学教育再生加速プログラム